

第4回教育委員会定例会会議録

令和元年4月23日（火）

場 所：教育委員室

出席委員	教 育 長	是 松 昭 一
	教育長職務代理者	山 口 直 樹
	委 員	嵐 山 光三郎
	委 員	猪 熊 緑
	委 員	操 木 豊
出席職員	教 育 次 長	宮 崎 宏 一
	教 育 総 務 課 長	高 橋 昇
	教育施設担当課長	古 川 拓 朗
	教育指導支援課長	三 浦 利 信
	指導担当課長	荒 西 岳 広
	生涯学習課長	伊 形 研一郎
	社会教育・文化財担当係長	井 田 隆 太
	社会教育・文化財担当主査	青 木 恒
	給食センター所長	土 方 勇
	公 民 館 長	石 田 進
	図 書 館 長	尾 崎 清 美
	指 導 主 事	小 島 章 宏
	指 導 主 事	武 内 陽 子

国立市教育委員会

付 議 案 件

区 分	件 名	
	教育長報告	
報 告 事 項	1) 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の平成31年度事業計画及び収支予算について	
議案第20号	平成31年度教育費(6月)補正予算案の提出について	
議案第21号	国立市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則案について	
議案第22号	臨時代理事項の報告及び承認について (平成31年度国立市立中学校教科用図書採択について)	
議案第23号	臨時代理事項の報告及び承認について (平成31年度国立市立小学校教科用図書採択について)	
議案第24号	臨時代理事項の報告及び承認について (平成31年度国立市特別支援学級教科用図書採択について)	
報 告 事 項	2) 平成30年度卒業式、平成31年度入学式の実施報告について	
	3) 第二小学校改築マスタープラン連絡協議会報告書について	
	4) 平成30年度学校評価報告書について	
	5) 平成30年度国立市立小・中学校 学校評議員会の報告について	
	6) 本田家住宅保存活用計画について	
	7) 市教委名義使用について(8件)	
	8) 要望書について(2件)	
議案第25号	国立市教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について	
議案第26号	第23期国立市社会教育委員の委嘱について	

議案第 2 7 号	臨時代理事項の報告及び承認について (教職員の人事異動について)	
議案第 2 8 号	臨時代理事項の報告及び承認について (平成 3 1 年度主幹教諭・主任の任命について)	
議案第 2 9 号	第 3 2 期国立市公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱について	

○【是松教育長】 皆さん、こんにちは。ことしは桜の開花の期間が長くて、ようやく桜が散り始めたところに八重桜が咲き始めるということで、今、八重桜が大変きれいな季節になっています。また、気候もよくて、大分暖かくなってまいりました。青葉も目にしみるようになりましたし、風も香る時期となりましたので、教育委員会としても快く、心地よく定例教育委員会を始めさせていただきたいと思います。

それでは、これから平成31年第4回教育委員会定例会を開催いたします。本日の会議録署名委員を操木委員にお願いいたします。よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 ありがとうございます。議事に入ります前に、4月の人事異動によりまして、説明員の交代がございました。教育次長から発言を求められておりますので、よろしくお願いします。

宮崎教育次長。

○【宮崎教育次長】 平成31年4月1日付人事異動に伴う新たな出席説明委員をご紹介します。教育総務課長高橋昇でございます。

○【高橋教育総務課長】 高橋でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

○【宮崎教育次長】 給食センター所長土方勇でございます。

○【土方給食センター所長】 土方勇でございます。よろしくお願いします。

○【宮崎教育次長】 指導主事小島章宏でございます。

○【小島指導主事】 小島章宏です。よろしくお願いします。

○【宮崎教育次長】 以上でございます。よろしくお願いいたします。また、伊形生涯学習課長が本日都合により欠席となり、説明員として井田社会教育・文化財担当係長と青木主査が出席しておりますので、あわせてよろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 人事異動に伴う新たな説明員は以上のとおりでございますので、よろしくお願い申し上げます。

それでは、審議に入りますが、本日の審議案件のうち、議案第25号「国立市教育委員会いじめ問題対策委員会委員の委嘱について」、議案第26号「第23期国立市社会教育委員の委嘱について」、議案第27号「臨時代理事項の報告及び承認（教職員の人事異動について）」、議案第28号「臨時代理事項の報告及び承認（平成31年度主幹教諭・主任の任命について）」及び議案第29号「第32期国立市公民館運営審議会委員の解嘱及び委嘱について」は、それぞれ人事案件でございますので秘密会といたしますが、よろしいでしょうか。

(「はい」の声あり)

○【是松教育長】 なお、本日、年度の当初ということもございまして、付議案件一覧のとおり、大変議案も報告事項も多くなっておりますので、各委員におかれましては、円滑な議事進行へのご協力、ご配慮賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

○議題（１） 教育長報告

○【是松教育長】 それでは審議に入ります。最初に教育長報告を申し上げます。

3月20日水曜日の第3回定例教育委員会以降の主な教育委員会の事業についてご報告申し上げます。

3月20日水曜日、平成30年度の学校の給食が終了いたしました。

3月22日金曜日には、小学校で三学期が終了いたしております。

また、同日、第二小学校の改築マスタープラン連絡協議会を開催いたしました。

同日は、市議会が最終本会議となりました。

3月25日月曜日に、小学校で卒業式がとり行われました。また、中学校では三学期が終業しております。

3月27日水曜日に、日野市との図書館相互利用協定を調印いたしました。

同日、公民館での運営審議会が開催されております。

3月29日金曜日、市職員と教職員の退職辞令等の交付・伝達を行っております。

また、同日、パラリンピックの競技体験事業、またオリンピック・パラリンピック機運醸成スポーツ講演会として、スピードスケートの高木美帆選手の講演会を開催しております。

年度が改めまして、4月1日月曜日、市職員、教職員の人事発令・伝達を行いました。

4月4日木曜日には、教職員の救急法講習会を開催しております。エピペン、AED等の取り扱いの講習を行いました。

4月8日月曜日に、小・中学校で一学期が始業いたしました。また、小学校では入学式をとり行っております。

4月9日火曜日には、中学校の入学式がとり行われました。同日より順次各校において給食が始まっております。

同日、公民館で運営審議会を開催いたしております。

4月10日水曜日に、校長会を開催いたしました。また、同日、東京都市教育長会の定例会と総会が開催されております。

4月11日木曜日には、副校長会を開催いたしました。

4月15日月曜日に、社会教育委員の会を開催いたしております。

4月16日火曜日には、平成31年度の東京都教育施策連絡協議会が中野サンプラザにおいて開催されております。

同日、文化芸術推進会議を開催いたしました。

4月17日火曜日には、国立市立小・中学校合同授業研究会の全体会と分科会を開催いたしました。

4月18日木曜日に、全国学力・学習状況調査が実施されております。また同日より19日までの2日間日光移動教室の担当教員が実地踏査を行っております。同日、スポーツ推進委員定例会を開催いたしております。

4月21日日曜日には、統一地方選挙が行われました。国立市におきましては国立市議会議員選挙が実施されたところでございます。

4月22日月曜日に、リーダー研修会の発会式を開催いたしました。

日程的な流れとしては以上でございますけど、ちょうど年度の切りかわりがこの間あったわけですが、平成30年度の主要事業につきましては、年度末をもちまして無事滞りなく終了いたしました。また、新年度からの新たなスタートも今のところ順調な滑り出しを見せております。一部学校等で火災報知器の不具合等がございましたが、大事に至らず、現在までは大きな事件事故がなく来ているということをご報告申し上げます。

教育長報告は以上でございます。ご質問、ご意見等ございましたら、よろしく申し上げます。

山口委員。

○【山口委員】 今、是松教育長から、年度が変わって新しいスタートが無事に切れていると伺いまして、

ほっとしているところでございます。この間、卒業式、入学式、その他の施策の協議会とか、先生方の研修会等列席をさせていただいているとこですけれども、先週ぐらいから学校の公開授業とか始まりました。あとセーフティ教室をやられているところを幾つか見させていただいた感想を簡単に述べたいと思います。

幾つかの学校をのぞかせていただいて、特に1年生がどんな様子かなというのが大体そういう関心を持って見てきたのですけれども、全体的にどの学校の子どもたちもしっかりと学校になじもうとして、教室になじもうとして、一生懸命授業を受けているなという感想を持ちました。もちろん30分ぐらいしてから教室をのぞきに行くと、ちょっと落ちつかなくなっている子も当然出てきています。それはいいのですけれども。あと、そのほかの学年の子も2年生は1年生から2年生になったとか、3年生は中学年くらいになってきたみたいな雰囲気。6年生は最高学年。第五小学校をちょっとのぞきに行ったときは、地区別に帰っていくという、土曜日にやっていたのですけど、多分6年生が1年生の子をしっかりみながら、ちゃんとできていない子には注意をしながら動いている様子を見ました。外に出てからもみんなはどこに住んでいるのかというのを聞きながら、それならこんなコースでこういったらいいと。事前には打ち合わせをしてあったと思うのですけれども、しっかり子どもたちを導いている姿を見て、ほほ笑ましく安心をしてきたところでございます。後ほどもう少し詳しく各小・中学校のスタート状況を教えていただければありがたいと思います。

それから、もう1つ。感想なのですけど、先生たちの研修会等々が始まっているところですが、合同授業の研究会のときにも三浦教育指導支援課長から、まず最初に全体的な考え方、国立市での考え方で、ちょうど4月1日から条例が施行されている「人権を尊重し、多様性を認め合う平和なまちづくり基本条例」と長くて大変なのですけど、この条例に基づいて国立市としての考え方、どんな人でもどんな子でも一緒に国立市の中で生活していく、生きていく、そのことが大切なのだよということをいって、学校の先生方がやはりそのことをベースにして子どもたちと向き合っていく、保護者と向き合っていく、地域と向き合っていくということのベースをしっかり持って、これから過ごしていくと。細かく言うと、いろいろな難しい問題は多々起ってくると思うのですけど、ベースのところをしっかりしていくのはすごく大切なことだと思っております、まさにそのことが最初に述べられたというのがすばらしいことだなということを感じたところでございます。

あと日程的に、あと2つほど質問させていただきたいのですけれども、18日の木曜日、先週ですけど、全国学力学習状況調査がありました。ニュースにもこんなに大きくこの調査が取り上げられたことがないぐらい取り上げられて、大体中学校の英語のことが出ていたのですけれども、その実施状況の様子を聞かせていただければと思います。

最後ですけど、3月29日にありましたオリンピック・パラリンピック機運醸成スポーツ講演会で、高木美帆選手が来られてお話を聞いたところですけど、それを聞いてきた子どもたちがたくさん来ていましたけれども、反応であるとか、その後の感想等を出てきているものがあれば、お聞きしたいなと思っております。よろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 それでは、順次お答え願います。まず新学期のスタート状況について。

武内指導主事。

○【武内指導主事】 まず、各小・中学校のスタート状況ですけど、どの学校も順調にスタートをしております。ですが、ちょっと1件、教育活動外ではありますが、先日学校を終えて、市役所の近くの公園で遊んでいた児童が、手首を骨折して救急車を呼ぶという事故がありました。そのときに一緒に遊んでいた児童たちが近くの人に助けを求めて、なのですぐに市役所に一報が入り、速やかに対応することが

できたということがありまして、SOSを近くの大人に出せる力が備わっていると感じました。

現在の子どもたちの様子ですが、しっかり挨拶をしたり、静かに話を聞いたり、友だちと元気に仲よく遊んだり等、立派な子どもたちの姿がたくさん見られています。また今月は全ての学校において、保護者会や学校公開等が行われました。今後も開かれた学校づくりの推進に努めてまいりたいと思っております。

以上です。

○【是松教育長】 いかがでしょう。よろしいですか。

○【山口委員】 はい。結構です。

○【是松教育長】 次に、全国学力学習状況調査の実施状況について。

三浦教育指導支援課長。

○【三浦教育指導支援課長】 先ほどご質問いただきました全国学力学習状況調査。特に今年度から英語を話すことの調査が入りました。この調査については、英語のいわゆる4技能、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの中で、話すことについての学力調査が実施されていなかったもので、このところについて各学校に文部科学省からUSBヘッドセットといいましょうか、ヘッドホンとマイクがセットになった端末が送られてきてまして、それをもって、国立の場合にはコンピューター教室にあるコンピューターに1人1台ずつ座り、そこでヘッドセットから流れてくる質問にあわせてマイクに向かってその答えを英語で話すという調査を行いました。各校からの報告では、調査の結果についてはわかりませんが、調査自体は滞りなく行われたという報告を受けております。

以上になります。

○【是松教育長】 最後になりますオリンピック・パラリンピック機運醸成の講演会の状況について。

井田社会教育・文化財担当係長、よろしくお願いします。

○【井田社会教育・文化財担当係長】 3月29日に行われましたスピードスケート高木美帆選手の講演会についてなのですが、講演会後にアンケートをお配りしたものを回収いたしまして、その中で子どもさんが書かれたと思われるものを幾つか紹介させていただきます。

「つらいときがあっても頑張れば高木選手みたいに金メダルをとれることもあると感じました。私もいろいろなことに挑戦して頑張りたいです」ですとか、「いろいろなことにチャレンジして、やりたいことを見つけないかと思いました。夢が持てました。ありがとうございました」というご意見であったり、あと「金メダルを触れてうれしかったです」という意見もございました。

簡単ですが、以上でございます。

○【是松教育長】 よろしいですか。

○【山口委員】 はい。ありがとうございました。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。

猪熊委員。

○【猪熊委員】 私も小学校の卒業式から中学校の入学式まで3回出席させていただきました。六小の卒業式では、卒業されるお子さんが入学のときの校長先生が黒田先生だったということで、それで卒業式に来賓で黒田先生いらっしゃっていたので、入学式も卒業式も黒田先生のお話を聞くことができました。そして六小なので、大半の人が二中に入学されて、黒田先生に迎えていただけたということで、保護者の方たちも何かすごくご縁があって、よかったわという感じで和やかな卒業式になっていたのも、よかったかなと思いました。

二小の入学式に行ったときには、司会の先生が新入生向けに説明してくださっていて、国歌斉唱とかも

「大人の方が国歌を歌います」とか言うと、小学生がみんな下から覗き込んできてました。歌っている私たちをのぞき込んで、ずっと見てくれているのですけど、とてもきらきらした瞳で、そのまま教室に入って、その瞳のまま授業を受けていていただきたいなと思いました。

一中の入学式は、私も今まであまり気がつかなかったのですけど、よく入学式だと新入生しか出席しなかったりすると、「校歌斉唱」と言われてもみんなまだ知らなくて、音楽だけが流れるような入学式なんかもあったりするのですが、一中の入学式は在校生も出席していて、その項目が校歌紹介になっていて、新入生は歌わなくても在校生が歌って校歌を紹介してくれるということになっていました。何か非常に心遣いが見られるような式次第だなということを改めて認識しました。

以上です。

○【是松教育長】 嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 二中の卒業式は3月19日で、4月8日の三小の小学校の入学式も行きました。もう僕はあと任期半年くらいで終わりになるので、もうこれで最後と思うと、入学式も胸がつまるものがありましたね。入学式で子どもたちみんなが入ってきてね。それでみんなまだ来たころは、いつも思うのだけど、だらだらしているのですよね。2年生が迎えて歌うと。2年生はぴちっとしてみんなうまいわけですね。そうすると1年間の教育の成果というのが、物すごくはっきり見える。それが両方いいですね。2年生になるとこうしっかりするのだなという気持ちと、1年生が自由でのびやかで、とても心が和みました。新聞の記事で見たら、東京都も全国的に小学校の先生を希望する人が減っているという記事が載っていましたけれども、やはりそうなのかなと。仕事がきつくて大変だからだんだん生徒数も減ってくるし、いろいろな事情があるのだろうなという思いで記事を読みました。でも、入学式と卒業式というのは、生徒の晴れ姿であると同時に、先生も晴れ姿なのですね。1組、2組、3組で、三小の場合は新しい先生が旗を持って、みんなが順番で行くときは、じーンときてしまいましたね。みんな良くしっかり育て欲しいと思いました。とても楽しい時間でした。

以上です。

○【是松教育長】 操木委員。

○【操木委員】 皆さんがお話になったので。この1カ月の間にたくさんことがあったなということを今、思っております。やはり3月25日、私、小学校の卒業式は一小に行かせていただいたのですけど、小学生の卒業式にはよく将来こんなことをやりたいとか、そういった決意ではないけど、お話をするのですけども、一小の子どもたちの発表の中に、困っている人のためにこういうことをしたいとか、その対象を言っているのですね。誰々のためにこんなことをしたい。病気で苦しんでいる人ために医者になりたいとか、そういったところがすごくすばらしいなという感想を持ちました。

それから、今度は4月になって入学式を、先ほどから出ていました二中に行かせていただきましたけど、当然入学生、新1年生は、これから頑張ろうという気持ちはすごくあらわれていていいのですけど、迎える2年生、3年生がとても優しいのですね。そして合唱を披露してくれましたけれども、君たちのことをずっと待っていたのだよという、そういう気持ちがあらわれてとてもいい雰囲気の入学式だったなと思いました。

そして、小学校は四小のほうに行かせていただいたのですけど、ちょっと何人か知っている子どももいましたので、こんなに4月になって、ぴかぴかの1年生が張り切っているなという様子もありましたし、それから、今、話が出ましたけど、やはり2年生ですね。2年生と6年生が小学校の入学式の場合、かわることが多いのですけれども、気持ちよく迎えてくれていましたし、本当に1年間の成長、目の前の1

年生、また来年、自分たちの体験を思い起こして、来年は今度迎える側をしっかりとってくれるのではないかと、そんな感想を持ちました。

これ以外で書いてないことの中には、スタートカリキュラム研修があったのですが、小学校1年生に入学して、その子たちがスムーズに小学校生活ができるようにというスタートカリキュラムの研修を披露なさっていることに非常にうれしく思いました。特にそこに幼稚園や保育園の教諭とか、保育士さんが中に入って、一緒に研究している。送り出す側と受け入れる側で一緒にスタートカリキュラムを考えていく。これは素晴らしいことです。今回は年長さんの担任と1年生の担任とで交流をするというのをちょっとお聞きしていますけれども、子どもたちが小学校生活をスムーズに進めるための研究だと思いますので、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

合同研では、中学校と小学校の連携がすごく深まっていることを感じていますので、保幼小の連携、それから小中の連携ということをお互い一層深めていただければと思います。

以上、感想とお願いで終わります。

以上です。

○【嵐山委員】 ちょっと一言いいですか。

○【是松教育長】 嵐山委員、お願いします。

○【嵐山委員】 今の話で、誰々のためにという気持ちは、とても大事だと思うのです。僕も1年生の入学式で弱い子がいたらみんな人のためにしてあげようということを話しました。来年はオリンピックでしょう。ひと昔前、「オリンピックを自分のために闘う」という選手がはまりましたね。自分のために戦うのだと。人のためではないと。国のためにではないということをおうとしたのか知りませんが、でも人間は自分のために戦えないですよ。そんな強くない。友だちのためには戦える。人のためにはできるのですね。だから誰かのためにと。体の弱い子がいたら、その子のために声をかけようという、人のためにというのはとても大事なことで。あの言葉、自分のために戦うと言っていた選手が、ロサンジェルスで負けてしまった。そんなに人間強くないです。自分のためだけに戦えない。だから人のために戦うと。戦うというのは、人のためにいろいろ助けてあげるという精神ですね。それがとても大事だという気がいたします。感想です。

○【是松教育長】 ありがとうございます。それでは、各委員よりご感想、ご意見賜りましたので、次へ進みたいと思います。



○議題（２） 報告事項１） 公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の平成31年度事業計画及び収支予算について

○【是松教育長】 それでは、次に、報告事項１、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の平成31年度事業計画及び収支予算についてに移ります。

くにたち文化・スポーツ振興財団高橋事務局長、よろしくお願いします。

○【高橋くにたち文化・スポーツ振興財団事務局長】 皆さん、こんにちは。くにたち文化・スポーツ振興財団の事務局長の高橋と申します。それと総務課長の佐々木でございます。よろしくお願いいたします。

済みません、着座にて説明をさせていただきます。本日は、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の2019年度の事業計画並びに収支予算をご説明させていただきます。

まず、事業計画からご説明をさせていただきます。表紙をおめくりいただきまして、1ページ目の「事業計画の概要」でございますが、一番初めに白丸で6点載っておりますが、それは財団の定款上の目的

を載せさせていただいております。その定款の目的を踏まえて、1 ページの中段以降から2 ページの中段までが2019 年の事業の全体像ということになります。

まず、芸術小ホールについてご説明をさせていただきます。初めに運営、それから施設の管理等に関してでございますが、これまで芸術小ホールでは、施設の利用、予約については、体育館、それから郷土文化館と同一のシステム、また、施設利用料の収納管理やチケット等の発券管理をする券票システムについては、それとは別のシステムを利用していました。今回、この券票システムを提供している会社がこの3 月まででシステムの提供、それから保守等を終了すること、また、これまで施設使用料の収納管理に関して、先ほど言いました予約システムと券票システムの二重管理になっていたことから、それらを統合する新たなシステムを4 月から導入することになりました。

次に、土日祝日の芸術小ホールの利用についてでございますが、芸術小ホール、それから市の事業でございますけれども、やはりどうしても集客の関係から、土日祝日に集中するというか、行われることが非常に多いということがありました。そのため市民の方々がやはり同じように、土曜、日曜、祝日に利用したいという希望が多いということがありまして、できることなら、芸術小ホール、それから市の事業を可能な限り平日に開催できるものについては平日に行いたいということです。そのことによって、利用料の収入もアップするということから、平日開催を進めてまいるということでございます。

それから従来から課題でございます、施設設備の老朽化についてでございます。これは芸術小ホール、総合体育館、両館に関してになりますけれども、2014 年度に耐震改修工事等、それから2018 年の2 月から9 月まで外壁改修工事等など、ここ何年かで比較的大規模な改修工事を行ってきているところでございますが、施設設備の老朽化、30 年超えますので、進んでおりまして、利用者の安全とお客様の施設利用の要望に配慮しつつ、施設の維持管理に努めてまいるということでございます。

事業に関してでございますが、施設としての公演事業以外にもワークショップ等の手法を用いて、学校や他団体等との連携を進めて、さらに教育、福祉、まちづくりなど、地域連携を深めるソーシャルインクルージョンの充実を進めてまいります。

また、国立市では2018 年、昨年の4 月から国立市文化芸術条例が施行されていまして、その条例に基づき、その後「(仮称) 国立市文化芸術推進基本計画(案)」を策定しておりますけれども、これらの条例、計画案等に基づき、その理念を生かすよう財団として事業展開を行ってまいります。

次に、2 ページになりますけれども、郷土文化館についてです。郷土文化館全体としては、谷保天満宮に代表される歴史的文化遺産の適切な保護と活用を図り、市民共有の財産として守っていきます。

それから2 ページの6 行目からになりますけれども、市民総合体育館では、2020 年の東京オリンピック・パラリンピックを見据え、人々のスポーツに対する関心が高まることから、特に新しいスポーツにチャレンジできるよう、子ども向けの体験教室を開催してまいります。

また、比較的健康に対して関心の高い高齢者に向けては、通年の事業展開を行うということでございます。また、障害者の利用がここのところふえていることから、障害者の方が利用しやすいように、ハード・ソフト面での改善を重ねてまいります。

それでは、各事業ごとにもう少し詳しく説明をさせていただきます。初めに、2 ページの中段、I の公益事業、1. 芸術小ホールについてでございます。まず、事業目的でございますが、文化政策環境の変化に対応できる基礎づくりを目指してまいります。そのために収入の安定、公演・トーク・ワークショップ・アウトリーチなど、複合的实施を可能とする体制を充実していく。それから、広報手段の改善による発信力強化を行います。

重点事業といたしましては、先ほど説明させていただきましたけれども、新しい収納システム・券票システムの運用を徹底させ、施設利用促進を狙う貸館事業・運営の実施。教育、福祉、まちづくりなど、地域連携を深める社会包摂機能についての検討。オリンピック・パラリンピックを契機とした文化芸術振興事業の展開。この3点を挙げさせていただいており、目標数といたしましては、利用料収入として2,000万円。利用者数として6万8,000人を目指して目標値を立てております。

具体的な事業といたしましては、ページ飛びますけれども、10ページのほうをお開きいただいてもよろしいでしょうか。

まず、番号の3「Meet the Artists」は地域でのアウトリーチ事業として、音楽やパントマイム、ダンス、落語などを地域の教育機関、福祉施設などでワークショップや鑑賞体験を進め、地域とゆかりのある卓越した芸術家の方に接し、コミュニケーションやキャリアデザインなどの学びや発見につなげる事業をいたします。

それから番号の4でございますが、2018年の3月に「くにたちアートビエンナーレ2018」として、野外彫刻展、また関連事業として「Play Me, I'm Yours」を実施いたしました。その事業を総合的に検証し、次期のビエンナーレのための条件整備、準備等を行います。

番号の6「くにたちデビューコンサート」でございますが、国立音楽大学出身の若手音楽家に発表の機会を与える事業としてこれまでも行ってきましたが、2019年度では国立市がイタリアのルッカ市との交流事業を進めている中、財団においても、ルッカ市出身のプッチーニの関連企画を実施するところでございます。

次に、番号の13「多和田葉子 複数の私」の4回目になりますけれども、今回は多和田氏が市民の方々と国立の市内をめぐり、国立の物語、言葉を紡ぎ、発表会を行う予定です。さらにそれをベースに多和田さんに戯曲を作成していただいて、2020年度にその公演を行う計画でございます。

それから、番号の18「【夏休みこども向け企画】アートテラーによる『親子で美術を遊ぼう！』」でございますが、これ、先ほど説明した「Meet the Artists」の事業として、2018年度で国立市の八小で美術作品の見方、楽しみ方として実施をしましたが、非常にそれが好評であったことから、2019年度では、それを別枠として設けまして、親子向けに芸術小ホールにおいて実施する予定でございます。

それから、番号の25「にっぽん伝統芸能祭」ですけれども、国立から委託を受けて、全国公立文化施設協会が実施する2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化プログラムの一環の事業で、当財団においても特に若年層に向けて伝統芸能を伝える事業を実施する予定でございます。

以上が芸術小ホールです。

次に、郷土文化館ですが、お手数ですけど、4ページにお戻りいただいてもよろしいでしょうか。2として郷土文化館の事業でございます。

事業目標として、地域に貢献する郷土文化館を目指すため、学芸員の専門性を生かし、社会の要請や地域の変化を視野に入れた運営を行うこと。また、参加型の事業を充実させ、生涯学習活動の支援を行ってまいります。

重点事業といたしましては、郷土文化館が所蔵する関東大震災、太平洋戦争等の災害関係資料の企画展示。本田家資料及び市広報写真を中心にくにたちの近現代に焦点を当てた企画展の展示。2020年度の春季に開催予定の国立駅舎再築及び駅周辺開発関連事業の資料収集及び調査の3点としております。

目標利用者数といたしましては、来館者を2万5,000人。古民家見学等の来館者を1万5,000人と設定しております。具体的な事業といたしましては、また、お手数ですけど、14ページをお開きいただい

ますでしょうか。

まず、番号4「春季企画展 ミニ展示『くにたちと災害』」でございますが、先ほど言いました関東大震災及び太平洋戦争を主題に、国立市の防災を学習する機会として、郷土文化館所蔵の関連資料を紹介させていただくということでございます。

番号の6「秋季企画展 写真展『写真にみるくにたちー本田家資料を中心にー』」は本田家資料及び国立市からの移管写真を中心に国立の近現代に焦点を当てた展示を行う予定でございます。

それから、次に、16ページ、17ページになりますけれども、番号の17「歴史講座『古文書と親しむ』」では、郷土文化館所蔵の近世資料や国立の暮らしに関する資料を活用し、国立の歴史を学ぶ講座を行います。

大体以上が郷土文化館についてです。

次に、体育館についてでございますが、お手数ですが、6ページにお戻りいただけますでしょうか。3. 体育館の関連事業については、事業目標といたしましては、小学生の運動能力の向上を目標としております。重点事業といたしまして、小学生水泳教室、オリンピックチャレンジプログラム、2事業としています。目標数値といたしましては、館内利用者が21万人。屋外施設の利用率65%を目指すところです。

具体的な事業としましては、18ページ以降になりますので、そちらをごらんいただければと思うのですが、体育館に関しましては、ほぼ例年どおりの事業ということになります。番号20のオリンピック体験プログラム、番号25の小学生初心者水泳教室の新規事業を加え、健康づくりのスポーツ事業や親子向けの事業、小・中学生向けの事業。また、国立市体育協会とも共催事業を実施してまいるところでございます。

なお、この事業計画の作成時にちょっと間に合わなかったのですが、今年度秋にラグビーのワールドカップが予定されておりますので、一応、今のところ6月ころに三小さんのグラウンドを借りて小学生向けのラグビーの体験講座を行う予定です。

以上が事業計画についての説明でございます。

続きまして、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団2019年度の収支予算についてご説明をさせていただきます。2019年度収支予算書をごらんいただきまして、まずページをお開きいただきまして、1ページ、2ページの全体の予算からご説明をさせていただきます。

2019年度の予算の特徴でございますが、全体として2018年度と比較して、収益・費用とも644万9,000円ほどの増になっています。指定管理事業といたしましては、2019年度から新たに国立市と5年間の基本協定を結ぶ中で、指定管理業の上限額を原則としたことから、527万7,000円の減となっています。また、自主・共催事業としての国立市からの補助金では、芸術小ホールとして、ビエンナーレ事業の関連費用として500万円の増。郷土文化館では本田家資料保存のための消耗品関係として50万8,000円の増。体育館では、これまで国立市が実施してきた小学生の初心者水泳教室を財団との、2019年度から財団との共催事業とすることから、その間、事業費の関連として30万円の増となっています。

それでは、まず予算書1ページの中段までの収益についてでございますが、中ほどに太線で囲まれた経常収益計という行がございますが、その行の右から3列目の欄になります。これが2019年度経常収益予算額で、4億2,339万2,000円となりまして、2018年度と比較して、644万9,000円、1.5%の増となっております。費用支出につきましては、右側のページの中段、やはり太線で囲まれた経常費用計の行、右から3列目、本年度の予算額の4億2,332万2,000円となりますが、そこから10行ほど下に法人税等というのが7万円ございますので、この7万円を超えますと、費用の計は4億2,339万2,000円ということで収益の予算額と同額ということになります。

それでは、収益費用ごとに比較的増減の多いものを中心に説明させていただきます。

まず、収益でございますが、左側のページの（１）経常収益の中の７行目。国立市指定管理料収益についてですが、２億５,３７０万円。対前年で５２７万７,０００円、２％の減となっています。この減の要因でございますが、先ほども説明させていただきましたけれども、２０１９年度から国立市と新たに５年間の指定管理の基本協定を結ぶ中で、市と指定管理料の調整をした結果、減となったものでございます。それより２行下、利用料収益は７,５３６万１,０００円で、４９４万３,０００円、７％の増となっています。これは主に芸術小ホールの利用料に関するもので、２０１８年度では外壁改修工事等で開館できなかった期間というのがございましたが、２０１９年度では通常どおりの開館が可能となったことから、それによる増収分ということになっています。

次に、そこから４行下の国立市補助金でございますが、６,６８０万３,０００円で５８０万８,０００円８.７％の増となっていますけれども、これは初めに申し上げました芸術小ホールのビエンナーレの関連事業、郷土文化館の本田家資料保存のための消耗品費、総合体育館の小学生初心者水泳教室実施などによる増となっています。

次に、１ページの中段以降、（２）の経常費用についてでございますが、これに関しても主に前年度と比較増減が大きい項目について説明をいたします。

まず、３行目に報酬がございます。４,５５６万円。対前年で３３７万７,０００円、７.９％の増となっています。この理由でございますが、郷土文化館において、ここ数年石棒の関連や本田家の関連など、比較的規模の大きい企画展示が続いていること。さらに本田家に関しては、今後も新たな企画が予定されていること。また２０２０年春の国立駅舎再築に合わせて企画展が予定されているなど、今後も企画展示が続くということがありまして、現在３名の学芸員の負荷が今後さらに増大するということが見込まれます。そのため現在の学芸員を補助する嘱託員を雇用することにより、学芸員の負荷を多少なりとも軽減するための報酬の増ということになっています。

それから、そこから１０行ほど下の修繕費でございますが、２,１１４万４,０００円で１１３万２,０００円、５.１％の減となっています。これは先ほども申し上げましたけれども、２０１９年度から指定管理が約５００万円ほど減少することから、予算全体の調整の中での削減になっています。

それから、そこから３行下、賃借料でございますが、９３９万１,０００円で１７４万７,０００円、２２.９％の増。さらにそこから３行下、手数料が３４３万４,０００円で１２８万７,０００円、５９.９％の増と、いずれも大幅な増となっていますけれども、これも事業計画の冒頭で説明させていただきましたが、芸術小ホールの新たな収納・券票システムの導入に伴うもので、システムに関する賃借料とシステムの初期導入の関連経費になっています。

次に、４行下の委託費でございますが、１億７,４９２万１,０００円で、４０９万６,０００円、２.４％の増となっています。これは２０２０年に向けてのビエンナーレ関連経費になっています。

次に、一番下の行の減価償却費でございますが、４７３万円で４４６万９,０００円、４８.６％の減となっています。これは芸術小ホール及び郷土文化館で使用しているパソコン等ＯＡ機器のリース期間の満了に伴うものでございます。なお、機器の入れかえに関してでございますけれども、メーカー側の事情により入れかえがおくれることが判明していることから、郷土文化館に関しては現在使用している機器を１年間の再リースすることといたしまして、芸術小ホールに関しては、導入する機器のメーカーを変更して入れるということで、芸術小ホールの新しい機器については、一部賃借料に計上させていただいています。これらの費用を合計しますと、右ページ中段、太線で囲まれた経常費用計の４億２,３３２万２,０００円ということで、収益の合計４億２,３３９万２,０００円からそれを差し引きますと、その３行下の当期経常増減額の７万円のプラスとなり、そこからさらに７行下の法人税等の７万円をマイナスしますと、太枠で囲まれています当期一般正味財産増減額がゼロということになります。この一般正味財産増減額がゼロであることから、その下の行の

一般正味財産期首残額とその下の行の一般正味財産期末残高はともに1,153万2,000円と同額になります。

以上が2019年度の収支予算でございます。それ以降のページは資金調達及び設備投資の見込みを記載した書類です。さらにその後のページは事業体系別の収支予算の内訳書となっています。参考としてごらんになっていただければと思います。

2019年度の事業計画及び収支予算の説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 報告は終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 いろいろ新しい試みもされるようで、期待しております。ちょっとだけ。目標数等が幾つか出ていたのですが、今年度との比較とかという数値が簡単にわかりますでしょうか。わかればいいのですが。

○【是松教育長】 高橋事務局長。

○【高橋くにたち文化・スポーツ振興財団事務局長】 今年度との比較なのですがけれども、ちょっとまだ、今、出ていないです。済みません。今、2018年度に関しては、ちょうど決算を今、締めているところなので、事業報告書並びに決算書については作成中で、次回のこちらの教育委員会のほうで報告させていただくことになります。

○【山口委員】 わかりました。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、ほかにないようですので、報告事項1、公益財団法人くにたち文化・スポーツ振興財団の平成31年度事業計画及び収支予算についてを終わります。高橋事務局長、佐々木課長、どうもお疲れさまでした。

○【高橋くにたち文化・スポーツ振興財団事務局長】 どうもありがとうございました。失礼します。

◇

○議題（3） 議案第20号 平成31年度教育費（6月）補正予算案の提出について

○【是松教育長】 それでは、次に、議案第20号、平成31年度教育費（6月）補正予算案の提出についてを議題といたします。

高橋教育総務課長。

○【高橋教育総務課長】 それでは、議案第20号、平成31年度教育費（6月）補正予算案の提出についてご説明いたします。当議案は、6月に開催されます市議会第2回定例会に補正予算案を提出するために提案するものでございます。

議案を1枚、おめくりください。初めに歳入でございます。款15都支出金、項3都委託金、目6教育費委託金、節1教育費委託金につきまして、オリンピック・パラリンピック教育推進事業委託金を補正前の165万円に20万円を追加して185万円とするものでございます。これはオリンピック・パラリンピック教育アワード校として実施する事業に対し委託金が支払われるものです。補助率は10分の10となっております。平成31年度において、第三小学校がオリンピック・パラリンピック教育を推進し、その成果を他校に普及啓発するオリンピック・パラリンピック教育アワード校に決定したことに伴い、ここで委託金を計上するものです。歳入につきましては、こちらの1件、20万円を増額補正するものです。

続きまして、2ページをごらんください。款10教育費の歳出の補正予算案でございます。表の上から2点は、先ほどの歳入予算と連動する歳出の予算となっております。

初めに、項1教育総務費、目3教育指導費、事務事業、学校教育向上支援事業費、節8報償費、細節2

謝礼、アワード校謝礼にオリンピック・パラリンピアン講演謝礼として14万円。節18 備品購入費、細節6 管理及び教科備品、アワード校備品購入費にボッチャボールセット購入経費として6万円、計20万円を計上いたします。

次に、同じ目3 教育指導費の事務事業、情報関連事業費、節13 委託料、細節33 設置・設営費（学校インターネット回線敷設委託料）です。補正前予算額71万2,000円に67万6,000円を増額補正し、138万8,000円とするものでございます。こちらは矢川児童館内に適応指導教室の機能を一部持たせ、人員を配置するに当たり、執務環境整備として新たにインターネット回線を敷設するものでございます。歳出につきましては、合計で87万6,000円を増額補正するものです。

平成31年度教育費6月の補正予算案の内容は以上のとおりです。よろしくご審査をお願いいたします。

○【是松教育長】 説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

ないようですので、採決に入らせていただきます。皆さん、ご異議がないようですので、可決でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 議案第20号、平成31年度教育費（6月）補正予算案の提出については可決といたします。



○議題（4） 議案第21号 国立市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則案について

○【是松教育長】 次に、議案第21号、国立市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則案についてを議題といたします。

高橋教育総務課長。

○【高橋教育総務課長】 それでは、議案第21号、国立市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則案についてご説明いたします。本議案は国立市議会傍聴規則が平成30年8月16日及び平成30年8月27日付で改正されたことに伴い、その改正内容に合わせる形で本規則の改正を行うものです。

具体的な改正内容をご説明いたします。議案を2枚おめくりください。A4横版の新旧対照表をごらんください。第2条ですが、傍聴人受付票にこれまで記載を求めておりました事項のうち、「住所」を削るものになっております。

次に、第5条です。第5号について。これまで着用し事前の許可を必要としていた帽子、コート類について、他の傍聴者の妨げにならないものについては、事前の許可を不要とするものになります。

第6号について。これまで携帯電話類の使用一切を禁じていたものを、傍聴の妨げとなるような一部の行為を除き、使用を認めることとしたものです。従前の第7号の前に新たに第7号を設け、撮影及び録音等については、事前の許可がないものについては、これを認めないものとし、従前の第7号を第8号と改めます。

また、様式の一部改正として傍聴人受付票から住所欄を削除いたします。

最後に附則として、本改正を交付の日から施行するものと定めております。

説明は以上です。よろしくご審議のほどお願いいたします。

○【是松教育長】 説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

それでは、ないようですので、採決に入ります。可決でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 議案第21号、国立市教育委員会傍聴人規則の一部を改正する規則案については可決と

いたします。



○議題（５） 議案第 22 号 臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立中学校教科用図書採択について）

○【是松教育長】 次に、議案第 22 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立中学校教科用図書採択について）を議題といたします。

武内指導主事。

○【武内指導主事】 それでは、議案第 22 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立中学校教科用図書採択について）ご説明をいたします。

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定による国立市立中学校において使用する教科用図書の採択を公正で円滑かつ適正に行うため、必要な事項を定めた国立市立学校教科用図書採択要項に従い、平成32年度に国立市立中学校において使用する教科用図書の採択を進めるものです。

今回の採択では、昨年度採択をいただきました「特別の教科 道徳」で使用する教科用図書を除く 9 教科の教科用図書を採択することになります。今回、採択いただきます中学校各教科で使用する教科用図書につきましては、学習指導要領改訂の前倒し通知を受けて、平成32年度 1 年間のみの使用になります。文部科学省初等中等教育局教科書課からは、教科書採択については、例年どおり採択権者の判断と責任により適切に行われることは必要であると通知されていますが、その中で調査研究資料については、前回平成 27 年度の採択事務の際に作成した調査研究の内容を活用することが考えられるとされています。さらに国立市立小中学校長会からは学校における調査研究、教科用図書検査研究委員会、教科用図書審議会における報告のとりまとめ等、現在使用中の教科用図書についての継続使用の適否を焦点化し、できるだけ能率的かつ簡略化してほしい旨の要望が出されています。

以上を踏まえまして、採択に当たりましては、国立市立学校教科用図書採択要項第18項の規定に基づき、教科用図書の調査用資料が平成27年度に実施した資料を使用し、加えて現在使用している教科用図書についての検証を教科用図書審議会に求め、教科用図書採択の資料といたします。

採択事務の日程は、資料の採択日程をごらんいただければと存じます。また、教科用図書審議会に求める現在使用している教科用図書についての意見書の書式は別添のとおりです。教科用図書審議会では教科用図書調査研究委員会からの意見を踏まえて、国立市立中学校で使用する教科用図書について審議し、審議会としての意見をまとめ、その結果を第 7 回教育委員会定例会に報告し、8 月の教育委員会臨時会にて採択いただきます。

報告は以上になります。どうぞよろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

ないようですので、今回の中学校の教科用図書採択につきましては、平成 32 年度 1 年に限って使用するものを採択する形になります。昨年、今年度、31 年度 1 年限りの使用となる小学校教科用図書の採択を行わせていただきましたけども、それに準じて中学校も行わせていただくことになっております。

それでは、採決に入ります。皆さん、ご異議がないようですので、承認でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 では、議案第 22 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立中学校教科用図書採択について）は承認といたします。

◇

○議題（６） 議案第 23 号 臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立小学校教科用図書採択について）

次に、議案第 23 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立小学校教科用図書採択について）を議題といたします。

小島指導主事。

○【小島指導主事】 それでは、議案第 23 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立小学校教科用図書採択について）ご説明いたします。

本件は、先ほど同様に地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び義務教育諸学校の教科用図書の無償措置に関する法律の規定に基づき、国立市立小学校において使用する教科用図書の採択を公正で円滑かつ適正に行うために必要な事項を定めた国立市立学校教科用図書採択要項に従い、平成32年度に国立市立小学校において使用する教科用図書の採択を進めるものです。

今回の採択では、新たに加わる外国語を含む、11教科の教科用図書を採択することとなります。今回採用いただきます小学校各教科で使用する教科用図書につきましては、平成32年度から4年間の使用になります。採択に当たりまして、小学校長8名及び教育指導支援課長並びに指導主事によって構成されます。教科用図書審議会を設置し、そのもとに教科用図書調査研究委員会を設置します。教科用図書調査研究委員会には、小学校長など1名が部会長となり、各小学校長から推薦された1名ずつの教員とで編成します。教科用図書調査研究委員会では、調査研究した結果を教科用図書審議会に報告します。教科用図書審議会では教科用図書調査研究委員会からの報告を踏まえて、国立市立小学校で使用する教科用図書について審議し、その結果を第7回教育委員会定例会に報告し、8月の教育委員会臨時会にて採択いただきます。

以上を踏まえまして、今後、採択事務を行っていくということとなります。では、どうぞよろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 説明が終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 来年度から使用する小学校の教科書、科目が、教科がふえたので。一番最後に採択日程の表が載っていました。教科書展示があるのですが、これは6月14日から7月12日展示ということで、場所はどこでやられるのでしょうか。

○【是松教育長】 三浦教育指導支援課長。

○【三浦教育指導支援課長】 例年どおり中央図書館と公民館で展示をいたします。

○【是松教育長】 よろしいでしょうか。この採択要項に基づいて、教科書の採択のもととなる資料をつくっていただきます。最終的には教育委員会で採択を8月の臨時会において行ってまいります。先ほど山口委員からのご発言にありましたように、外国語が小学校でふえております。例年以上に教科の数もふえておりますし、「特別な教科 道徳」も加わったことで、大変な作業になろうかと思いますが、各委員におかれましては、1つ、今年度も教科書採択についてしっかりとご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

それでは、採決に入ります。皆様、ご異議がないようですので、承認でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 では、議案第 23 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立小学校教科用図書採択について）は承認といたします。

◇

○議題（７） 議案第 24 号 臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市特別支援学級教科用図書採択について）

○【是松教育長】 次に、議案第 24 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市立特別支援学級教科用図書採択について）を議題とします。

荒西指導担当課長。

○【荒西指導担当課長】 それでは、議案第 24 号、臨時代理事項の報告及び承認（平成 31 年度国立市特別支援学級教科用図書採択について）ご説明いたします。

本件は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び義務教育諸学校の教科用図書無償措置に関する法律の規定に基づき、国立市公立小中学校の特別支援学級において使用する教科用図書の採択を公正で円滑かつ適正に行うために必要な事項を定めた国立市特別支援学級教科用図書採択要項に従い、平成31年度国立市立小中学校特別支援学級において使用する教科用図書の採択を進めるものです。

採択に当たりましては、特別支援学級設置校長の代表 1 名及び校長が推薦した特別支援学級の担任教員によって構成されます教科用図書審議会を設置し、そのもとに特別支援学級設置校ごとに校長、副校長、それから特別支援学級の担任で構成する調査委員会を設置いたします。

過去の調査委員会では児童・生徒の実態に応じて検定教科書または一般図書から指導に使用する教科用図書を調査研究し、その結果をこの教科用図書審議会に報告いたします。教科用図書審議会では、各校から報告された内容を参考に、教科用図書調査結果について、その結果を第 7 回の教育委員会定例会に報告いたします。

今年度の採択事務から小学校の教科用図書は外国語の教科用図書を新たに採択しておりますけれども、特別支援学級がもとにしている特別支援学校の小学部の教育課程には、教科としての外国語はありませんので、新たに採択することはございません。

なお、第二小学校に設置している情緒固定学級については、通常の学級の教育課程に準じておりますので、先ほどの小学校の教科用図書として採択されたものを使用することになります。

以上を踏まえまして、今後採択事務を行っていくことになります。どうぞよろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 報告が終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。よろしいでしょうか。今年度また小・中学校の教科用図書、それから特別支援学級の教科用図書と、教科書採択多数になります。が、ひとつよろしく願いいたします。

それでは、皆さん、ご異議がないようですので、承認でよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○【是松教育長】 議案第 24 号、臨時代理事項の報告及び承認について（平成 31 年度国立市特別支援学級教科用図書採択について）は承認といたします。

◇

○議題（８） 報告事項 2） 平成 30 年度卒業式、平成 31 年度入学式の実施報告について

○【是松教育長】 次に、報告事項 2、平成 30 年度卒業式、平成 31 年度入学式の実施報告について」に移ります。

武内指導主事。

○【武内指導主事】 それでは、報告事項 2、平成 30 年度卒業式、平成 31 年度入学式の実施報告をさせていただきます。学習指導要領には実質的な行事の内容として学校生活に有意義な変化や折り目をつけ、

厳粛で清新な気分を味わい、新しい生活への展開の動機づけになるような活動を行うと示されています。各学校からはこの内容に基づき、厳粛かつ清新な転機の中で児童・生徒の新たな生活への折目となる卒業式、入学式が実施されたという報告を受けております。今後も子どもたちに育成する資質能力を明確にした上で、児童・生徒が主体的に考えて実践する卒業式や入学式が実施されるよう、学校へ助言してまいります。

報告は以上です。

○【是松教育長】 報告は終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。各委員からも卒業式、入学式の状況についてのご感想もいただきましたので、なければ、次へ移らせていただきます。



○議題（９） 報告事項３）第二小学校改築マスタープラン連絡協議会報告書について

○【是松教育長】 報告事項３、第二小学校改築マスタープラン連絡協議会報告書についてに移ります。

古川教育施設担当課長。

○【古川教育施設担当課長】 それでは、お時間を頂戴いたしまして、第二小学校の改築について学校関係者ですとか、保護者、地域の方々、それから行政、有識者とともに学校づくりの理念ですとか、平面計画について意見交換を行いまして、その内容がまとまりましたので、ご報告をさせていただきます。

それでは、お手元でございます「第二小学校改築マスタープラン連絡協議会報告書」をもとに、ご説明差し上げます。

初めに１ページをごらんください。先ほど申し上げました連絡協議会のメンバーをこの２番にございます１５名になります。右側の２ページにございますように、昨年７月から毎月協議を行いまして、計１０回協議を行いました。そこで学校づくりの理念ですとかコンセプト、それから校舎配置といったことについて協議を重ねてまいりました。

１枚おめくりください。「～つづく つながる～夢を育てる学び舎」というものが連絡協議会での議論でしたり、ワークショップを通じてつくった理念になります。未来の第二小学校が目指す姿であったり、改築において大切にしたいというものになっております。これは今までの二小のよさですとか、伝統を未来につなげ、それを生かしながら夢を育てる学校をつくりたいという連絡協議会の思いが込められております。

続いて、右側になりますけれども、この理念を実現するためのコンセプトを５つ。それがこの花びらそれぞれになっておりますけれども、それがコンセプトの５つになっております。このコンセプトをもとに具体的な方針を策定しております。その体系図といたしまして、次のページ、Ａ３の折ってあるところをごらんください。

このような形に、右側に行くにしたがって、具体的な形になるように体系を仕立てております。ここからはコンセプトに基づきまして、具体的な計画方針を幾つか特筆すべきものをご説明申し上げていきたいと思っております。それでは、おめくりいただきまして、８ページをごらんください。

５つあるうちの１つ目のコンセプト「学びを生みだし共に育ち学び合う」をもとにした方針になります。左側７ページにある箱、四角囲みの中で、ここで実現をしたい項目、狙いを記載しております。具体的な方針としましては、８ページでまず普通教室周りのことを記載しております。aの普通教室では、中黒の１つ目にあるように、学習形態ですとか、児童数、学級数、あとは少人数学級の進展も考えられますので、こういったものに柔軟に対応できるようにするということですとか、ポチの４つ目の落ちつきを取り戻すためのスペースとしてデンなどの小空間の検討、こういったものを記載しております。また、bとcです

けれども、学年ごとにまとまりを持った教室配置とすることですとか、学年全体ですね。それで交流ですとか、教育活動ができるようにするといったことも記載しております。

続いてのページになります。次の9ページをごらんください。③の真ん中にあります図書室です。これを学校を中心として位置づけまして、日常的に使えるようにするですとか、学年を超えた交流、それから居場所の空間として検討することにしております。それから右側⑤の管理所室ですけれども、ここは職員室ですとか、校長室、事務室というところになります。働き方改革という視点もございましてけれども、職員室の3つ目のところにございますように、休息ですとか、簡単な打ち合わせがすぐにできる。こういったスペースを職員室にも確保するですとか、執務環境の向上、こういったものを図りたいと考えております。

続きまして、11ページのコンセプト。「自然とふれあい豊かな心を育てる」についての方針をご説明いたします。実現したいイメージとしては、同様に左側の四角の枠内に記載をしております。これを受けまして、①の外構計画の2つ目の二松の保存に努めるですとか、4つ目の例えばビオトープなど子どもたちが生き物に触れられる、こういった場を設けるといった方針を策定しております。

続きまして、3つ目、次ページになります。1枚おめくりください。「世代を超えて伝統を未来へつなげる」という部分になります。ここでは主に外構計画ですとか、グラウンドを中心とした部分の方針になります。右側、14ページの①、②ですけれども、ボラン、他校でいう朝礼台ですけれども、こういったものや重厚な正門、このような特徴的なものを、安全性を確保した上で形など、こういったものを継承していくとしております。また、③ですけれども、屋内運動場は最後のポチのように、暑さ対策を行うとともにbの校庭、屋外運動場ですけれども、ここの2つ目にあるように、現状以上の広さを確保するとしております。

1枚おめくりいただきまして、次の4つ目のコンセプト、16ページをごらんください。「絆を大切にし地域と共に育つ」です。学校教育以外との連携の部分になります。まず、16ページの①開放施設ですけれども、ポチの1つ目にありますように、校庭、体育館だけでなく、特別教室まで含めて地域開放、こういったものを検討してまいりたいと思っております。また、地域活動の場所を用意するとともに、次の17ページ、左下の水色の図表にございますように貸し部屋ですとか、コミュニティスペースといったものとともに学童保育所を用意したらどうかと、そういったところを②の複合施設のところで記載しております。ほかにも④のポチ2つ目のように、周辺道路に歩道を広げる形で二小の敷地を提供してはどうかといった点も記載しております。

続きまして、次の5、18ページですね。「いつでも誰でも安心安全に過ごせる」ですけれども、ここでは18ページ下の①、ポチの2つ目にありますように、多くの地域の方々との交流を行うことで、設備面での安心安全に加えまして、地域が目で安全をつくりたいという点も記載されております。

その他、次の19ページ以降では、防災面の項目を記載しております。安全性といったものは、保護者のアンケートの中でも要望が高かったものになります。ここまでが5つのコンセプトに基づく施設に対する方針になります。この方針と並行いたしまして、22ページをごらんください。ここにございますように配置計画、どの位置に校舎を建てるかといったことも検討いたしました。

続きまして、24ページのA3をごらんください。先ほど申しました配置計画になりますけれども、A案からD案。簡単に申しますと、A案は現在の校舎の位置に建てる案。B案は西側に建てる案。C案というのは東側に建てる案。D案は直接現在の校庭に建てる案というものを比較検討しました。特徴や評価については、続いております24ページの左側と、続いております25ページに記載をしております。

結論としましては、B案の西側案では隣地に民家ですとか、保育園がございまして影響が多いこと。それからD案の南側案では、校庭の光の影響なども懸念されまして、A案の現在の位置の案と、それからC案の東側の案で引き続き検討を進めることになりました。

この後は、どこに建てるかといった配置計画と先ほどの方針を踏まえまして、各諸室をどの位置に当てるか。それがどういったところに当てるのがベターなのかといった具体的な平面図を並行して検討してまいりました。それに当たって、先ほどお話しいたしましたコンセプトを平面図に起こしております。少し考察を書き加えたのが28ページから31ページになります。ここでは、普通教室、それから特別支援教室、特別教室、管理所室の配置上の考え方を視覚的にあらわしたゾーニングになります。具体的には例で申し上げますと、29ページのメディアセンターの考え方をお話しさせていただきます。

矢印の上側で従前の考え方を示しておりますけれども、そこではPC室と図書室を個別に従前では配置しております。矢印の下側になりますと、今後の配置図ということで、一体的な部屋として整備をいたしまして、廊下の部分も自由に使える、集える。こういったスペースとして整備することを考え方として整備しております。

ほかの諸室についても同様に矢印の上が現在の状況をあらわしております、下で今後の考え方、ゾーニング。こういったものを記載しております。こういったことと、それから32ページ。ページがどんどん進んでしまっただけで申しわけないのですが、32ページで現在考える必要な面積というものを出しまして、33ページ以降で、先ほど2案残りましたとお話をさせていただきましたが、北側案と東側案の2案について平面図を引きまして、比較検討を行いました。33ページは北側配置案となっております。それからおめくりいただいた34ページが東側の配置案となっております。

見方を簡単にご説明申し上げますと、先ほどのゾーニングの考え方をもとにいたしまして、緑色が普通教室群、ピンク色が特別教室群、紫色が特別支援教室群、それから青が管理所室や体育館等になっております。また、見にくいのですが、緑が複合施設群となっております、これは内部に入る機能がまだ検討段階、マスタープランの連絡協議会ではこういったものがあつたらいいなという希望的なものは集約をさせていただいておりますけれども、学校以外に、例えば学童保育所ですとか、集会施設といったほかの施策での有用性ですとか、必要性の検討を踏まえておりませんので、今現在具体的な諸室名を記載せず位置のみとしております。これは今後市としてマスタープランを作成し、そのあたりの要・不要を含めた結論が出た段階から市民も含めて意見を聞きながら、計画の中で詰めてきたいと思っております。

話が多少それましたけれども、この2案に対するマスタープランの委員からの評価をまとめたところが、35ページに記載してございます。検討に当たっては模型を使って立体的にもイメージをしやすいような形もご用意させていただきまして、ワークショップ形式で各委員が自由に考えをお話しされるとともに、それを皆さんで共有をいたしました。

結果、表記されておりますように、さまざまな意見が出たところでございますけれども、一番下にあります「今後の方針」にございますように、今後の学校建設に向けて重要な局面でもありましたので、再度引き続き検討を行うこととなりました。その後、3月9日に開催された第9回連絡協議会におきまして、結果から申しますと、36ページ、37ページに記載させていただいておりますが、東側案ということで委員全員の合意となりました。この内容で教育委員会に報告をするということに、その場でなりました。

38ページに、その理由といたしますが、各委員の意見を集約したものが記載されております。まず、樹木が多く確保されている点。それから校庭が現状以上の広さがある点。建物が回廊的に使えることで、従来の東西に長い廊下と比較しますと、移動がコンパクトになる点。それからゾーニングで確認をいたしまし

た学年ごとのまとまりをより充実できる点。学年が変わるごとに教室の向きが変わりますので、そういったところで進級を視覚的、風景的に実感できる点。あとは仮設校舎を使わないことで費用面に加えまして、引っ越しが1回で済むといったことや仮設での生活が不要になる、そういったことで建設中の学習、それから生活環境への影響が少ない点。また複合施設の種類にもよりますけれども、学校施設側との連携がとりやすく、東側の樹木帯を開放することで、地域住民にとっても利用がしやすく、造成の関与がしやすい点などが評価されております。この案自体もこの計画で決定というわけではないのですけれども、今後設計の中で多少変更する可能性もあります。さっきの評価を求め、下にあります今後の検討課題についても意見が出ておりますので、それらも踏まえまして、今後基本設計の中でより具現化を図っていきたいと考えております。

ここまでが連絡協議会での検討の成果と皆さんでつくってまいりました内容の報告になります。今後につきましては、この場でご意見をいただいた意見なども踏まえて、事務局で作業を行い、次回以降の教育委員会でマスタープラン案をご提案させていただきたいと考えております。また、その先の話になりますが、市全体としても案とした後、市議会等にはご報告をさせていただきまして、市民に向けて説明会ですとかパブコメも行い、広範なご意見をいただいた後に計画設定をして、今年度中に設計業務に入っていきたいと考えております。

雑駁かつ早足なご説明でありましたが、ご報告は以上になります。よろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 報告が終わりました。ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 全体的な印象の話になってしまうのですが、まずコンセプトといいますかね、考え方、うまくしっかり決めて、それをベースにして具体化をしている。かなり細かく検討されているなというのは、説明を受けたり、この報告書を見ながら感じているところです。

実際に、特にオープンスペースといいますかね、そういう場所が何カ所もとられていて、今、新しくできる学校というのは、そういうところが非常に有効だなと幾つかの学校を見て思っておりましたので、これがしっかりとられているのと、子どもたち自身が伸び伸びと動けるように、それから、先生方の居場所についても配慮がきちっとされているというのはすごくいいことだなと思っております。あと、地域との関連ができるような複合施設をベースとしたいと。これがどう具体化していくか、今後にもなると思うのですが、ぜひいい形でできていくと、今後改築がどんどん始まっていくほかの学校もそういうスケジュール化されてくるのだらうと思うのですけれども、まずスタートとしてしっかりと検討していただいたのではないかなと思っております。ありがとうございました。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

私からも一言申し上げたいと思います。まず、マスタープランの連絡協議会の各委員さん、本当に10回にわたって熱心にご議論いただきまして、学校づくりの理念、コンセプトから始まって、それぞれのさまざまな校舎配置の検討、ゾーニングの検討、それから平面計画等、大変難しい問題を本当に各回手際よく議論をまとめていただいて、その過程もこの報告案の中で、逐次わかるような報告にさせていただきました。

わかりやすい報告案をいただいたということと、なかなか我々だけでは気がつかなかったような示唆に富んだ学校機能というものも盛り込んでいただいております。最初、二小の改築、どう行っていくのだらう、仮設校舎をどうするのだらう、校舎の平面計画はどうなっていくのだらうと、さまざまな心配もしておりましたが、それぞれの問題点を1つ1つ丁寧に吟味していただいて、それを地域や児童・生徒、教職員が満足できるような形のものにまとめていただいて、皆さん全会一致でご納得いただいた中でこれだけ

の報告案を出していただいたことを大変ありがたく思います。改めまして感謝申し上げます。

今後、この報告案をもとに基本設計に向けて教育委員会としてもまた協議を重ねていただくようになりますので、ひとまずはこういう報告案をいただいたということで報告をありがたく受けたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。よろしいですか。

それでは、第二小学校の改築マスタープラン連絡協議会の報告書については、以上といたします。



○議題（10） 報告事項４） 平成30年度学校評価報告書について

○【是松教育長】 次に、報告事項４、平成30年度学校評価報告書についてに移ります。

武内指導主事。

○【武内指導主事】 それでは、報告事項４、平成30年度学校評価報告書について報告をさせていただきます。この報告書は学校教育法施行規則第66条に規定されている学校評価について、同第68条の規定により自己評価の結果及び学校関係者評価の結果を国立市立小・中学校から提出を受けたものです。

学校評価は次の3つを目的として実施いたします。第1は、教育活動の自主的、継続的な活動で改善を図ること。第2は、公表、説明により適切に説明責任を果たすとともに、保護者、地域住民等から理解と参画を得て、学校、家庭、地域の連携・協力による学校づくりを進めること。第3は、学校の設置者等が学校評価の結果に応じて、学校に対する支援や条件整備等の改善措置を講ずることにより、一定水準の教育の質を保証し、その向上を図ることです。

評価指標等については、学校の実態に応じて独自に設定しておりますので、学校間での比較をするものではなく、各学校単位での評価であることをご留意いただければと思います。

全体的な傾向として挙げますと、学力の向上については一定の評価をいただいております。いじめの早期発見や対応については課題もあり、引き続き学校いじめ防止基本方針を踏まえた取り組みの推進を行ってまいります。また、体力向上については、東京女子体育大学の学生の方々に協力をいただいた指導もあり、一定の効果が得られています。各学校はこの評価を平成31年度の教育課程に反映させ、充実を図ってまいります。

報告は以上です。

○【是松教育長】 報告が終わりました。ご質問、ご意見、ご感想等ございますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 感想になるのですが、たくさんのものが盛り込まれているので、A3の大きさにしても字が小さくて見るのが大変だったというのがありますけれども、でもこれはこれだけの内容。これでも多分書き込めてない部分もあるのかなと思っております。それぞれ、今、武内指導主事が言われたように、現状をしっかりと見つめて、かなりきめ細かくポイントを突いた分析をされていて、それに対する改善策が大体載っているなということを感じております。

それから、学校関係者評価のところも、それぞれ見られる視点が若干違う部分もあるかと。人によって違う部分もあるのかと思いましたけれども、いい形で学校のところを見ていただいているなと思っております。課題もしっかりと出ておりますので、これに基づいて今年度また改善を進めていただければと思います。ありがとうございました。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。例年、学校評価報告書をいただいています。大体各校、様式もそれぞれ細かいところは違いますが、おおむね統一した様式になっております。そういう意味では大分評価報告書自体がすっきりしたものになったという印象を受けております。ただ各校、これによって評

価を競い合うわけではございませんので、一番肝心なのは、各学校において保護者や地域の方々にこの評価を見ていただいて、またさらなる学校に対する関心と新たなる評価をいただくことが目的としてございますので、ぜひ各学校におきましては、この評価報告書については、学校だよりあるいは学校ホームページ等で必ず公表して、保護者や地域の方々にごらんいただけるようにご努力をいただきたいと思いますと思っています。



○議題（11） 報告事項 5） 平成30年度国立市立小・中学校学校評議員会の報告について

○【是松教育長】 続きまして、報告事項 5、平成 30 年度国立市立小・中学校学校評議員会の報告についてに移ります。

荒西指導担当課長。

○【荒西指導担当課長】 それでは、報告事項 5、平成 30 年度国立市立小・中学校学校評議員会の報告についてご説明いたします。

本件は、平成 30 年度に国立市小・中学校各校に設置された学校評議員会について、国立市立小・中学校評議員会設置要項第 6 条第 3 項に基づき、各学校長が評議員会における協議事項等を教育委員会に報告するものです。

各校年間 3 回は原則として評議員会を開催し、学校運営の基本方針及び計画に関すること。それから教育活動の実施に関すること。学校運営の評価に関することなどについて、学校長が必要に応じて評議員に助言を求めています。

過去における主な協議事項及び評議員からの主な意見につきましては、資料のとおりになりますが、どの学校においても学校運営に対して評議員から建設的な意見をいただいているところです。

平成 31 年度も校長が行う学校運営に関して幅広く意見を聞く場として機能するよう、必要な支援を行ってまいります。

報告は以上です。よろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 報告は終わりました。ご質問、ご意見、ご感想ございましたらお願いします。

山口委員。

○【山口委員】 質問といいますか、学校評議員会、国立市は昨年度が初めての設置ということで、1 年間やられてきた部分があります。1 つ要望なのですが、評議員会の報告のところに「回」と「協議事項」と「意見」と書いてあるのですが、これ、何月何日という日付をぜひ入れていただくと、イメージとしてわかりやすくなるなど。あと細かくいろいろ書くとすると思うのですが、最低限そのレベルは入れていただければと思います。

それから 1 年間やられたところで、評議員の方も初めて評議員になられた部分での立ち位置とかかわり方、それぞれの学校のほうも評議員会に関して運営をされていく中で、1 年たってみてどんな感じだったのか。もうちょっと詳しく教えていただければありがたいなと思います。

○【是松教育長】 荒西指導担当課長。

○【荒西指導担当課長】 学校評議員会なのですが、主に学校はそれまでの学校関係者評価委員会の委員さんなどから中心に声かけ等していき、評議員として教育委員会が委嘱をした形になっています。その中で従前学校評価に特化してお話を伺っているところでもございましたけれども、今回学校運営に関して校長が必要な助言を求め、一歩進んだ形で意見を求めるようになっておりましたので、それぞれに評議員の方々、意識を持ってさまざまご意見をいただいたと聞き及んでいるところです。

今後、さらに学校関係者評価委員会のメンバーとか人選についても、さらに幅広く意見を求められるほうがいいのではないかなという意見もこの報告書には挙がっておりますので、さらに地域とか、家庭のご意見等も踏まえたご意見をいただけるように、この評議員会でしていけばいいのかなと考えてございます。

以上です。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。

では、私からも感想を述べさせていただきます。昨年度から始めて1年間、学校評議員会制度という形で評議員を国立市教育委員会から委嘱して、各学校での学校経営等についてのご意見、ご指導いただくという形の組織としまして、運用していただきました。

今回、報告いただいております、さまざまなことについて学校へご助言いただいたというのはわかるのですが、もともとが学校関係者評価会議からそのまま移動したような形があり、まだまだあくまで評価をやっているところが多いので、できればもっともっと学校のほうも学校の課題であるとか、学校経営についてもっと直接的なご意見を求める等してできるだけ地域の方々の知見やお力を学校に反映させて取り込んでいく形での運営をさらに今年度以降また続けていただければ、我々の意図した組織としてまた今後コミュニティスクールの開設に向けても基礎をつくっていただけるようになるかなと思います。1年間やってみて、それなりに学校が努力された形跡がこれでよくわかりますが、またさらにこの評議員会の趣旨をよくお酌み取りいただいて、各学校で評議員会のこの活動の活用をしていただきたいというのが感想と希望でございます。

以上でございます。



○議題（12） 報告事項6） 本田家住宅保存活用計画について

○【是松教育長】 それでは、次に、報告事項6、本田家住宅保存活用計画についてに移ります。

青木社会教育・文化財担当主査。

○【青木社会教育・文化財担当主査】 それでは、本田家住宅保存活用計画についてご報告申し上げます。資料が本体のほかに概要版をお配りして、合計2点になってございます。計画本体ですが、200ページ近い分量がございますので、ちょっとごらんいただくのは大変かなと思いますので、主に概要版に基づきましてご説明をさせていただきます、必要に応じてちょっと大事なと思われる箇所につきましては、私のほうでページ数をお示しさせていただきます。それでは、よろしくお願いいたします。

まず、「策定の経緯」でございますが、国登録有形文化財であります本田家住宅は、平成28年度に本田家16代当主の本田啄夫様より建造物、それから周囲の土地、それから主屋の中にご置きました資料の全ての寄贈を受けたところでございます。生涯学習課では「貴重な文化財を後世に伝えてほしい」という寄贈者である本田家ご当主のご意向を最大限に尊重しつつ、国立市の歴史文化の発信拠点とするべく、本田家住宅の解体、それから復元工事を実施していく予定でございます。ただし、こちらの工事には多大な費用を要することから、復元費用の財源確保のために、東京都の文化財指定を目指しているところでございます。ですので、東京都の指導のもと、平成29年度から2カ年をかけて、本田家住宅に関する「保存活用計画」の策定を進めてまいりました。

続きまして、2番「計画の体系について」でございます。保存活用計画は、文化庁より策定指針といったものが示されておりまして、この後ご説明します第2章から第5章までが策定義務のある内容となっております。これらに加えて、計画の概要、それから法文等の記述とあわせまして、合計6章プラス附章という形で構成がされてございます。本日はこちらの文化庁より策定指針が示されている箇所につき

ましてご報告を申し上げます。

まず、第2章です。こちらが「保存管理計画」という計画になってございまして、建物をこういった方針で保存していく、管理していくといったものを示す章になってございます。こちらで、まず1つポイントとなりますのが、復元年代になってございます。こちら、本田家は築、推定ですが300年近くたっていることもございまして、その歴史の深さから、さまざまな時期を修理の目標年代とすることが考えられました。

計画の本体の2-17ページをごらんいただきたいと思います。事務局では、こちら現存する図面や増改築等の痕跡から4つの目標年代を設定させていただきました。1つ目が、創建当初、江戸中期になります。が、建築的な本質的価値が最も高いとされている江戸中期の時代。それから薬医門が建造されました幕末の時代。それから薬医門が現在の位置に移動した昭和7年。最後にショサイという現在の本田家を象徴する部屋がつけられました昭和34年の時代。以上の4つから検討を進めたところでございます。

概要にお戻りいただきまして、最終的に事務局では、④の「土間部分に文人のしつらえが凝縮されたショサイが造作された現在の状態に近い時期」、昭和34年の時期というものを修理目標年代に設定させていただきました。設定年代をこちらにした主な理由でございまして、本田家は先ほど申し上げたとおり名主、医者、文人を初めとするそれぞれの時代で活躍してきた本田家が紡いできた歴史の変遷。こちらを今回、あわせてご寄贈いただいております史資料とともに広く示し、活用していくためには、資料と建造物の整合性が必要不可欠であるという結論から、今回この4番という時期を修理の目標年代とさせていただいております。

この下、計画の可変性といったところをちょっとご説明させていただきたいと思います。計画本体のほうでは、2-20ページをごらんいただきたいと思います。

今回、保存活用計画を策定するに当たりまして、建物の現況調査というものを実施いたしました。ただし、こちらの現況調査では、部材等の詳細な調査であったり、痕跡調査といったものは行っておりません。ですので、今後解体工事等を予定している中で、さらに詳細な調査等が実施された際には新たな発見みたいなものが出てくるということもございまして、こちらで東京都に協議をした結果、この計画自体を今後状況によっては可変させることもきちんと明記してほしいという指導を受けましたので、2-20ページの注記の部分に「将来的な根本修理の際の解体にあたって詳細な調査を行い、当初の形式技法・後年の修理内容等について明らかになった事項については、保存管理の設定年代に沿って、部分・部位の設定について見直すものとする」といった表記を加えてございます。

以上が保存管理計画の主な内容でございます。

続きまして、第3章の環境保全計画のご説明をさせていただきます。今回、土地もご寄贈いただいております。立派な庭もご寄贈いただいておりますので、そちらについてもきちんと適切に管理保存をしていくといったことについて記載をした章になります。

3-3ページをごらんください。計画対象範囲となっているのが、今回ご寄贈いただいた土地部分になっております。このうち当初事務局のほうでは、全てを保全区域ということで可変を少し認めていく設定に当初はしていましたが、東京都の指導でやはり東側の部分、こちらは幕末より庭園の状況が変わっていないといった説もございまして、こちらについては、まず保全ではなく保存区域としてほしいというご指導がございました。

それから薬医門から玄関に続くアプローチの部分も大事にしていってほしいといったご意見がございましたので、こちらを保全から保存区域という形に設定をして、よりきちんと今の状態を守っていこうとい

う形にさせていただいております。以上が環境保全計画のご説明になります。

続きまして、第4章が「防災計画」になります。こちらは、現在の本田家の現状や諸条件をもとに、防火、防犯、耐震、耐風、水害、交通といった災害に対する今後の防災対応について記述した章になってございます。

続きまして、第5章「活用計画」でございます。こちらは、今後、本田家をどのように修復した後、活用していくかといったことについて記した章になってございます。本田家には先ほどもご説明申し上げたとおり、建造物としての価値、それから資料を初めとする民俗文化財としての価値などを初め、さまざまに価値のある歴史性を有しております。市としましては、これらを最大限活用できるように、活用のコンセプトを「本田家の貴重な資料展示と南部の歴史文化の発信拠点」とし、1つ目が、資料展示のための博物館機能。それから2つ目として観光機能。3つ目として体験機能を具備させていくことについて記述をしております。

計画本体の5－5ページをごらんいただきたいと思います。こちら、③の体験機能のところに関しては、まだ具体的な記述をしていないのですが、暫定での公開活用案をこちらにお示しをしているような状況でございます。こちらの計画につきましては、東京都の指定文化財を目指しているところもございまして、東京都、それから文化庁に提出を今後していく予定でございます。

最後に今後の予定でございますが、計画決定をした後、今、ご説明申し上げたとおり、東京都、文化庁に計画を送付したいと思っております。それから指定を目差していくといったところで、東京都の文化財保護審議会にも出席をして、こちらの計画について説明をしていきたいと考えてございます。目標では今年度末の東京都の文化財指定を目指したいと考えてございます。

それから、こちらは計画の実際の調査等の内容にもよって少し変わってくる部分はございますが、一応予定としましては、平成32年度に基本設計。それから詳細な痕跡調査を実施したいと考えております。それから33年度に解体工事を実施しまして、その後、実施設計を34年度、それから35年度に復元工事を予定してございまして、36年度、37年度、今から5年後、6年後ぐらいになるかと思いますが、修復、きちっと直った本田家というものを竣工させまして、市民の皆様、それから近隣の周辺の住民の皆様にごらんいただける状況にしていきたいと考えてございます。

簡単ではございますが、ご報告は以上になります。よろしくお願いいたします。

○【是松教育長】 報告が終わりました。ご質問、ご意見、ご感想ございますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 報告書を見させていただきだけで、全部見られないのですが、すごい細かく、これだけ細かくやっていかなければいけないのだと、改めて勉強になりました。ご苦労さまです。頑張ってください。

○【是松教育長】 こういう文化財を修復復元する場合には、復元年代をどこに求めていくかというのがやはり一番議論になるところですし、今回、本田家についてもやはりそこら辺が一番議論になったところだと思います。1－13のところに時代の変遷によって間取りが変わってきているところが載っております。当初、つくられたときには、図の1－8のような平面図的な構成であったということで、実はこれが江戸中期の名主の家の中での喰違六間型という間取りとして非常に残されているものが少ないという形のものであるということで、建築的には評価を受けているわけです。この部分を復元するのか、それともその後さまざまに改築されてきて、最終的に1－10で現状の改築……となってきた、当時の300年前の建物とは大分違う様相になってきているわけです。ただ、本田家の場合には先ほど青木主査からのご報告にありま

したように、この 300 年の間に本田家自体が谷保の中の文人の文化として紡いできた歴史というものが、変遷があるわけで、これを再建当初にしてしまうと、その歴史の紡ぎの様子がわからなくなるという中で、一番最近、最寄りのショサイが造営された当時の間取りが一番残る資料の展示、それから資料との関連性の中でいいのではないかということから、復元年代を一番新しい時期の平面構成でいくことになったようでございます。

対照的なのが国立駅舎でございまして、国立駅舎は逆に創建された当時の昭和の最初の意匠に変えていくという形で。あれは逆にそういう意匠としてつくられた街づくりの歴史がある中で、住宅都市としての駅として、どんどんそういった意匠が壊されて、単なる機能だけの駅舎に改築されていった。ある意味昔の古きよきものがどんどん壊されていって、単に機能重視の駅舎になっていってしまっていて残っていた三角屋根の駅舎を創建当初に戻すことによって、逆にそれがしっかりした駅、建築文化がよみがえるという、そういうコンセプトだったものですから、駅舎は創建当初のものになっておりますが、本田家は逆に創建当初ではなくて、その創建当初以降紡がれてきた 300 年の歴史を何とか復元していきたいというコンセプトだと思っていただければいいのかなと思っております。

嵐山委員。

○【嵐山委員】 本田家は、僕は 3 回くらい見て、一番最初は 30 年ぐらい前かな。見学会というのがありまして、小澤さんがやっていた国立自然の文化を守る会というのがありまして。それで行くたびにやはり古くなっていて。今、学芸員なさっている方は一生懸命調査なさって、未だに残っているものもあるし。だけでも復元するのは大変ですね。頑張ってください。

僕はいつも国立に帰ってくるときは、高速道路を下りて、ぎゅっと下をおりてきて、本田さん家の前から入って、国立のたまらん坂に向かう。だからタクシーで帰ってくるたびに「ああ、本田さん家、どうなっているかな」というと、無人の家でこっちが壊れてしまっていて、広い邸宅があって、門だけ立派で、中に誰もいない無人の家に梅の花が咲いていたりして、なかなか風情があってね。だけど人が住んでいないし、そういういろいろな思いがある。あそこしょっちゅう通る道なのでね。あそこのちょっと横へ行ったときに、前の市長のガマさんの家ですからね。甲州街道沿いから入る道だから、車はとめにくいですが、しょっちゅう通るたびに廃屋の風情というのがある。やはり資料は資料であるし、学芸員の方が一生懸命なさっているけど。どういう形であそこはなるのかなと、いつも心配になるのだけど。長いですね、いろいろね。横に古墳もできたし、古墳も立派になってしまっていて。古墳もあそこなかなか行かない。早くちゃんときれいに保存されると良いですね。そういう国立の 1 つのシンボルですから、大変でしょうけど、どうぞご奮闘くださいませ。

○【是松教育長】 操木委員、お願いします。

○【操木委員】 感想というかね。本当にご苦労さまです。というのは、その一言になるのですが。活用計画を見ていて本当にこれからが楽しみだなという感想を持ちました。いつかはこの国立の子どもたちがこの本田家を語れる、そんな時代がもうすぐやってくるのだなとすごく期待感を持ちました。どうぞ頑張ってください。

○【是松教育長】 よろしいですか。



○議題（13） 報告事項 7） 市教委名義使用について

○【是松教育長】 それでは、次に移ります。報告事項 7、市教委名義使用について。

井田社会教育・文化財担当係長。

○【井田社会教育・文化財担当係長】 では、平成 30 年度 3 月分の教育委員会後援等名義使用について、報告させていただきます。お手元の資料のとおり、承認 8 件でございます。

まず、国立研究開発法人情報通信研究機構が主催の「オープンハウス 2019」です。小・中・高生を含む広く一般向けに情報通信研究機構の最新研究をアピールし、興味・関心を喚起することを目的に研究者講演やパネル展などを行うもので、参加費は無料となっております。

2 番目は、国立三曲協会が主催の「第13回こと、三絃、尺八演奏会」です。こと、三絃、尺八の興隆や会員の親睦を深めること。地域の文化振興に寄与することを目的に演奏会を行うもので、参加費は無料となっております。

3 番目は、ライフステーションワンステップかたつむりが主催の「はるなが国立市民になり、おかげさまで10年たちました記念公演」です。しょうがいがあってもあたりまえに地域で暮らせるということを市民の方々、特に子どもたちに知ってもらうことを目的に劇公演を行うもので、参加費は無料となっております。

4 番目は、くにたち桜守が主催の「第12回国立桜コンシェルジュ展」です。桜の開花に合わせて、地域振興を目的として国立市のシンボルの桜並木を紹介するもので、参加費用は無料となっております。

5 番目は、第 5 回国立まと火実行委員会が主催の「第 5 回国立まと火」です。北秋田市合川地区の年中行事を通じた市民交流と文化交流を目的に、「まと火」の点灯式やアトラクションを実施するもので、参加費用は無料となっております。

6 番目は、まなのわが主催の「みらい t e むすび p r o j e c t」です。女性や子育て支援、地域の活性化、市民交流を目的にワークショップやトークイベントを行うもので、ワークショップの参加費として 1,000 円のものとは 3,000 円のものでございます。

7 番目は、朗読劇「父と暮らせば」公演実行委員会が主催の「朗読劇『父と暮らせば』国立公演」です。演劇鑑賞の楽しさを伝えることを目的に、原爆・平和を扱った朗読劇を行うもので、参加費は一般が 2,000 円となっております。

最後は、カジキタドリームが主催の「剣と義そして誠～壬生狼新選組～」です。土方歳三の没後 150 周年を機に、いま一度平和について考えてもらうことを目的に、新選組に関する演劇を行うもので、参加費は 3,200 円となっております。

以上、8 件につきまして、事務局で審議をし、妥当と判断し、名義の使用を承認いたしましたので、ご報告いたします。

以上、市教委名義使用の報告でございます。

○【是松教育長】 報告は終わりました。ご意見、ご感想ございますか。



○議題（14） 報告事項 8） 要望書について

○【是松教育長】 よろしければ、報告事項 8、要望書についてに移ります。

高橋教育総務課長。

○【高橋教育総務課長】 要望は 2 件です。子どもたちが主催者の社会科教育を求める会より、指導要録等でない補助簿等であっても、道徳で「十分満足、概ね満足」や「◎○△」等、「数値などによる評価」やマイナスの文言の記述は違憲・違法である事実を周知するよう求める要望書を、市民の方より、国立市における外国人児童・生徒の就学に関する状況、課題点があれば報告してほしい旨の要望書をいただいております。

以上です。

○【是松教育長】 報告は終わりました。2件ございますので、まず、1件目について事務局より補足説明がございましたでしょうか。

三浦教育指導支援課長。

○【三浦教育指導支援課長】 それでは、1件目の要望書について、補足説明をいたします。

要望の趣旨といたしましては、大きく4点あったかと思います。1点目は、児童・生徒を「十分満足」と「概ね満足」等に仕分けたり、「◎○△」等の記号をつけたりする評価について、次の3点を校長会等で周知すること。1つ目が、上述の評価をすることは、指導要録や通知表はもちろんだが、教務手帳等の教員の手持ち資料においても違法であること。2つ目として、教務手帳等の教員の手持ち資料も情報開示の対象となること。3つ目として、児童・生徒の心の中を「数値などによる評価」をすることは、教員であっても憲法に違反すること。

2点目としては、先ほどの内容は憲法に違反することを伝えること。

3点目として、憲法に違反することに関連して、戦前、戦中に実施されていた修身科は、思想、良心、信教等を侵害していたことを伝えること。

4点目は、教育長会や指導室課長会等でこれらのことを参加者に伝えること。

以上の4点が要望の趣旨としてあったかと思います。この件についての担当課の見解ですが、まず、「特別の教科 道徳」の評価に関しては、学習指導要領等に基づき、学期等の大くくりで児童・生徒がいかに成長したかを積極的に受けとめて、認め、励ます個人内評価を記述方式で行うよう校長会等で周知をしており、要望として書かれていることを改めて校長会等で周知する必要はないと考えております。

次に、要望書に書かれている成績をつける際に使用する資料の開示等の扱いですが、教育委員会が定めている文書や学校組織が共有して使用する資料でなければ、教員個々が作成しているメモ等と同じ扱いで、開示の対象になるかどうかは個別の判断となると考えております。

最後に、要望書の中に「憲法に違反」や「違法」との表記がありますが、現時点で「特別の教科 道徳」の評価についての裁判所の判例等は確認できていないことを補足いたします。

説明は以上になります。

○【是松教育長】 補足的な説明もいただきましたが、この要望書についてご感想、ご意見等ございますでしょうか。

この数値的評価を行わないようにということが大きな趣旨のご要望だと思っております。昨年の第5回の定例会でも同様のものをこの要望者からご要望いただいておりますが、そのときにも同じように答えておりますが、数値的な評価を行わないということ、子どもたちの成長の過程を見つつ、それを励まし、さらに伸ばしていくという個人内評価を記述式で行っていくことを常に我々も学校にも伝えておりますし、また、学習指導要領の解説の中にもそこはしっかり書かれております。そういった意味で引き続きしっかり道徳の評価のあり方については適正な評価を行っていきたいと思っておる次第です。

ほかにかがででしょうか。

それでは、続いて2件目に入りたいと思います。同じく2件目について、事務局、補足説明があったらお願いします。

高橋教育総務課長。

○【高橋教育総務課長】 それでは、2件目の要望書について補足説明いたします。要望の趣旨としましては、出入国管理法の改正等により、今後外国人の流入増加が見込まれ、外国籍児童・生徒の将来的な増

加が見込まれる中、国立市における外国籍児童・生徒の就学に関する状況、課題点があれば報告をしてほしいというものになっております。

この点につきまして、国立市の外国籍児童・生徒数は、昨年、平成30年4月1日段階で児童43名、生徒15名の計58名となっております。平成31年4月1日段階での確定値はまだ出ておりませんが、4月16日段階での見込みといたしましては、児童46名、生徒18名の計64名を見込んでおり、若干の増加が見られます。市では現在各学校に日本語指導員を配置して、外国籍児童・生徒の学校生活を支援しており、現在のところ大きな問題は生じておりません。今後外国籍児童・生徒数が極端に増加するようなことがあれば、国の対応も注視しながら何らかの対応を行う必要が生じる可能性もあると考えております。

補足説明は以上になります。

○【是松教育長】 補足説明は終わりました。2件目の要望について、ご意見、ご感想ございますでしょうか。

山口委員。

○【山口委員】 外国籍の児童・生徒を取り上げてといいますか、大変だというのではなくて、生徒個々視点として僕は見なければいけないと思います。さっきの国立市の持っている条例もそうなのですが、全ての子どもたちそれぞれが生活しやすい環境、学校に行きやすい環境、学びやすい環境をつくっていく。あとは市民全体が市で生活しやすい環境をつくっていくというのがベースだと思うので、そのことにのっとって考えていくのが大切だろうと思います。ですから外国人だから特別ということではない。ただし、言葉の問題とかが生じる可能性は非常に高いわけですから、そこに対する個々の対応はしていかなければいけない。外国人が子どもたちよりももっと親のほうが生活のしにくさを感じているケースというのがあるのではないかなという気が若干しています。学校の場合はそういう対応が比較的とれていきやすい部分があると思うのです。そういうところで、公民館とかでそういう対応とかされているやに聞いたのですけど、ちょっとそこら辺の状況報告していただければと思います。

○【是松教育長】 では、公民館長。

○【石田公民館長】 公民館におきましては、外国人のための、生活のための日本語講座というのを火曜日から木曜日まで、昼間ですけれども行っています。また、火曜日については夜間も行っていて、程度によって段階方式で生活を送られる大人向けの講座は実施している状況でございます。

○【是松教育長】 ほかにいかがでしょうか。

在籍する外国人の子どもたちの日本語教育指導については、先ほど事務局から説明ありましたように、日本語指導員というのも派遣して、今、24、25人が毎年この制度を活用して、不慣れな日本語を克服していくことの支援を行っております。子どもの場合は、比較的子どもたち同士の輪の中で日本語になじんでいくのが早いということでございますけれども、山口委員もご心配なさっていたように、むしろ外国籍の親御さんのほうの、やはり日本語の習得が子どもに追いついていかないという現状もある中で、公民館等で外国人のために日本語講座、あるいは日本語サロンもやっているということで、地域の方々も入っていただいて、外国籍の方々の支援を今、しているところでございます。今後入管法が改正されて、さまざまに外国からの労働者の方がふえていく中で、この問題はもっともっと大きな課題になってくようかと思いますが、今ある下地をしっかりとそれに伴って、こういった制度をさらに拡充していくということで対応を図っていきたいと思っております。

要望書、2件について、よろしいでしょうか。

それでは、これをもちまして秘密会以外の審議案件は全て終了いたしました。ここで次回の教育委員会

の日程を決めておきます。

宮崎教育次長。

○【宮崎教育次長】 次回の予定でございますが、5月28日火曜日午後2時から、こちら教育委員室で予定してございます。

○【是松教育長】 それでは、次回の教育委員会は5月28日火曜日午後2時から。会場はこちら教育委員室といたします。皆様、お疲れさまでございました。

午後4時10分閉会